



発行所：諏訪実業高等学校同窓会
発行編集者：広報部
印刷：株オノウエ印刷

平成24年度定期総会開催

新会長に大久保氏、副会長に武井・伊藤・花岡・増澤の各氏

平成24年度同窓会定期総会が5月19日(土)にラコ華乃井ホテルで行われた。学校から倉田学...

Table with financial data for the 24th fiscal year, including income and expenses.

藤森前副会長に感謝状と花束が贈呈された。また旧職員の増沢三平先生が出席してくださり、今でも畑作りに精を出されていると語られた。

平成24・25年度役員

- 会長 大久保 一 (43年卒)
副会長 林 清次 (31年卒)
河内 克朗 (32年卒)
宮下 孝正 (34年卒)
伊藤 勝郎 (34年卒)
藤澤 輝雄 (36年卒)
武井 範好 (36年卒)
村田美香子 (37年卒)
伊藤 久典 (38年卒)
花岡 廣子 (43年卒)
新妻比佐志 (53年卒)
増澤 義治 (57年卒)
岩波 政雄 (41年卒)
三井 安雄 (47年卒)
阿部 金光 (49年卒)
橋本 春菜 (59年卒)



上條前会長に感謝状を贈呈

県縦断駅伝に出場して 全諏訪
諏訪実業二年 雨宮慎一郎
今年の県縦断駅伝は、二連覇を目指していたが、22秒差で惜しくも2位となりとても悔しかったです。チームの一人一人がもう1秒ずつ速かったら違う結果になったかもしれません。1秒の重さを痛感した駅伝でした。

ご挨拶
会長就任にあたり
同窓会々長 大久保 一
各位におかれましては、益々ご清栄のこととおよろこび申し上げます。平素は同窓会活動にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私は5月19日の総会におきまして同窓会長を仰せつかりました。大久保一と申します。5期10年に渡り会長を務めて頂きました上條前会長より引き継ぎました。身を引き締る思いでもありますが同時に不安でいっぱいでもあります。幸いベテランの副会長さんに多くお残り頂き、新たに4名の副会長さんをお迎えでき大変心強く思っております。副会長さん、監事の皆さんのお力をお借りして微力ながら頑張っております。基本的には上條前会長さんの方針を継承するものでありますが、今回ホームページも完成致しました。これからは携帯電話、インター...

百周年には 甲子園出場を！
学校長 倉田 吉春
今年の夏には50年振りにベスト16に進んだ野球部が同窓生・生徒・保護者・教職員・地域の皆様に熱く、感動的な青春の日々を思い出させてくれました。50年前は高度経済成長期で三種の神器と言われる家電製品の普及や第二次産業発展の絶頂期でした。当時の様子や70周年の記念誌で見ると、野球部、排球部、籠球部は県大会準優勝、陸上部は全国高校女子駅伝出場、珠算部は全国大会入賞、卓球部・地学部・吹奏楽部も活躍。そしてNHK青年の主張では日本一になる等々生徒は景気のごとく活気に満ちていました。時は流れオイルショック、バブル経済崩壊、東日本大震災、世界金融危機を境に日本中が低成長期を迎えました。諏訪圏でも企業の人員削減等の波が生徒の夢と希望を奪おうとしています。専門高校としてどんな人材を育てるべきか、今後百周年に向けてどう取り組むべきか、課題は多いと感じています。そんな中でも服飾科が行うファッションショーには「すきをかたち」をテーマに、生徒自らがデザインし、布地を探し、どのようにきれいに見せるかの探究が集約されています。また...

「互助」「利他的」という言葉が社会のキーワードになるはずで、(4)地域の生活を支え、伝統や文化を担う覚悟。本校はショッピングやビジネスセンターなど地域社会との連携が容易な教育内容を持っています。本校が地域社会の一部として機能することで地域や企業からの信頼をより強固にし、諏訪実生の活躍の場を広げていきたいと思っております。

進路を通して 身につけてほしい力
進路指導主事 福澤 憲一
今年には次のようなことを中心に進路指導を行っていきます。(1)自分で考えて、自分から行動する。進路を考えることは、自分の人生を考えること、即ち人生設計をすることもあります。自分しっかりと向き合い、この姿勢を身につけてほしい。(2)人間関係を良好に築く態度を養うこと。本校には「こんにちゅう」という挨拶文化があります。そのために本校の卒業生は就職先の方から挨拶がよくできると言われます。この文化をもっと強化し、地域社会に広げたいと思っています。(3)利他的に生きる姿勢。毎朝職員玄関から進路室まで清掃している生徒がいます。人のために何かをするという姿勢を感じます。これから世界に例を見ない超高齢化社会を迎える日本では...

Table showing student progress and statistics for the 24th fiscal year, including counts for various categories.

褒章を受章
平林 幸さん
春の褒章で平林幸さんが更生保護の功績で藍綬褒章を受けられた。平林さんは本校卒業後長野県保育専門学校(現在の長野県福祉大学)を卒業し、木曾や諏訪の保育園、諏訪の企業内保育所(保育園)に入る前の幼児の保育に勤務した。母親の介護のために保育士を辞めた時、恩師から保護司になることを勧められ、この道に入った。いろいろな年定年退職するまで26年間、犯罪や非行で保護観察処分になった商業科のショッピングやビジネスセンターにも学習の成果が生徒の表情に溢れています。クラブ活動に全力で取り組む姿には心うたれるものがあります。地域に愛され、貢献できる人材を育てる為に学校が一つになつて取り組めば、甲子園出場も夢ではないと思います。今後とも同窓生のお力添えをお願いし、共に頑張っていきたいと思いま...

「うんと優しい口になっていた。この仕事への充実感と誇りを感じた。」三年前に亡くなった夫の昭七さんの応援が大きき支えだったと振り返られた。